事例No.	2692
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	鹿児島県立鶴翔高等学校

事例区分	地域活性化

タグ	・教育・子育て ・関係人口 ・人材確保・育成

事例種類	地域資源の活用

事例内容・タイトル

鹿児島県立鶴翔高等学校

出典

令和元年度ふるさとづくり大賞事例集

優　秀　賞

鹿児島県立鶴翔高等学校　　鹿児島県阿久根市

環境保全　　産業振興　　産学官連携

概　　要

阿久根市では、海水温の上昇などにより、海藻を食い荒らすウニが増え続け、それらのウニは駆除しても食用には適さず、地元の漁協では廃棄に困っていた。

そこで、高校生が廃棄するウニを農業に活用する研究に５年間継続して取り組み、試行錯誤を重ねながら、ウニの発酵液を完成させた。発酵液を用いた作物の生育比較試験を重ね、地域の未利用資源の有効活用と、環境に配慮した循環型農業に貢献するとともに、発酵液の効果を科学的に検証し、技術の普及のために様々な機会に成果発表を行っている。



【廃棄ウニ問題】

評価された点

・廃棄されるウニの発酵液を農業で活用することを実践して、地域の水産業、農業の課題を同時に解決している。米栽培に対する効果をきちんと実証し、環境問題に配慮した循環型農業を実現していることは、地域力向上につながると考える。また高校で取り組むことで、高校生の地域産業への関心も高まると期待できる。

・高校生が地域の水産と農業の課題解決に挑戦し、結果を出している好事例。比叡山高校（滋賀県）との交流など、今後全国の高校とのネットワーク拡大も期待できる。

・地域の「困りもの」を地域の「宝」に変え、循環型農業を確立させた高校生の取組は賞賛に値する。生徒が主体的に地域課題の解決に貢献する鶴翔高校の取り組みはまさに”真の学び”であり、新たな教育モデルとしても注目される。

・５年継続した研究からウニの発酵液を作ることに成功し、農業に活用できるまでの実証実験をしてきたことは素晴らしい活動である。

・駆除による廃棄ウニ問題について高校生が継続的に解決取り組む中で、地域・企業・行政との関わりが生まれ、教育機関としてだけではなく、地域に「なくてはならない学校」としてのバリューを生み出した。また、幼稚園、小学校との連携により、若年層のうちから地域について考えていける人材の育成効果も期待できる。

・地域にとってやっかいものであったウニの新たな価値を発見し、未利用資源の有効活用と環境に配慮した循環型農業に貢献している。若い力と地域が一体となった事例である。





【ウニの発酵液の開発】